No. 2020 - 14
令和2年11月5日

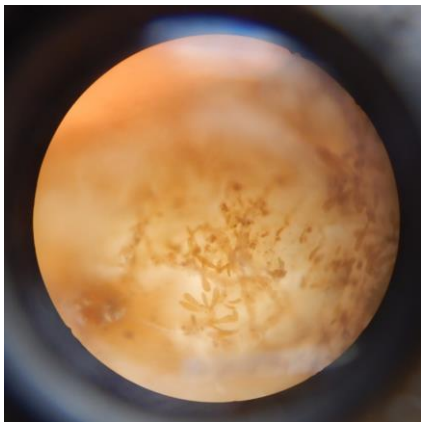
漁況情報・浜の話題

神奈川県水産技術センター
企画指導部　046-882-2489
相模湾試験場　0465-23-8531

●浜 の 話 題

○ 10月1日と12日、長井町漁協所属の漁業者が生産しているワカメ種糸の様子を、担当普及指導員が検鏡しました。9月から種苗の成長を促進させるため管理小屋を明るくし、海水を足して栄養補給するよう指導してきたところ、成長した芽胞体（幼芽）が数多く観察されました。検鏡結果を聞いた漁業者は14日以降、種糸の仮沖出し（本養殖の前に種苗の成長をさらに促すための作業）を始めました。長井地区では、植食性のアイゴから保護するため、仮沖出しの際にワカメ種苗の周りにネットを張っています。

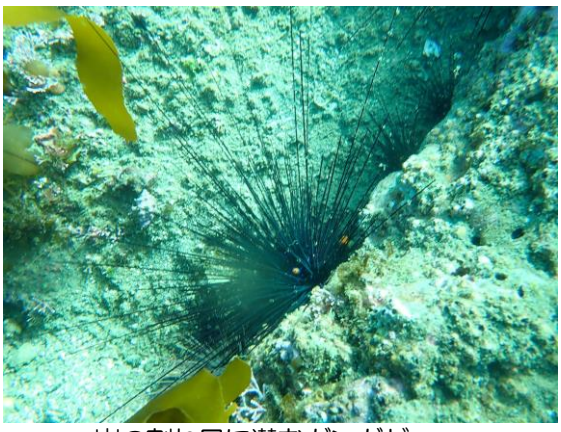
ワカメ検鏡の様子


ワカメ種糸の顕微鏡画像

○ 10月1日、腰越漁協は（公財）相模湾水産振興事業団の支援を受け、当センター栽培推進部が生産した殻高約2cmのサザエ種苗7,000個を放流しました。当日は同漁協の腰越漁業研究会所属の若手漁業者5名が、地先の岩礁域に放流しました。

サザエ種苗放流の様子

○ 10月2日と3日、三和漁協城ヶ島支所と城ヶ島ダイビングセンターで構成される「城ヶ島地域藻場保全活動組織」は、地先漁場でウニの1種ガンガゼの除去を行いました。この活動は、大量に発生し海藻を食べて磯焼けを引き起こすガンガゼを除去し、藻場を回復させることを目的に毎年実施されているもので、2日間でのべ19名の漁業者が参加し合計2,360個のガンガゼを除去しました。参加した漁業者の話では、除去活動を始めた当初よりガンガゼはかなり減少しており、またカジメの新芽も生えてきているそうで、活動を継続してきた効果が現れているものと考えられます。


岩の割れ目に潜むガンガゼ

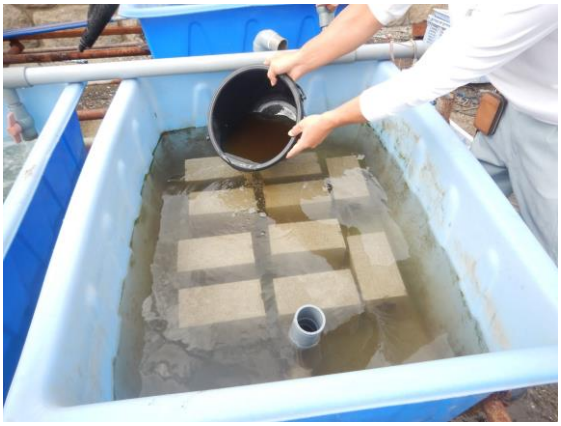
ガンガゼ除去をおこなう漁業者

○ 10月6日、当センター栽培推進部は三和漁協城ヶ島支所の協力のもと、平均全長 7.1cm のカサゴ種苗計 6,200 尾を放流しました。カサゴは本県の刺網漁等の重要な対象種であり、当センターでは平成 27 年度からカサゴの資源管理型栽培漁業を進めるための研究に取り組んでいます。今後は市場に出向いて魚体調査を行い、放流効果などを調べていく予定です。

カサゴの種苗放流の様子

○ 10月6日、三和漁協初声支所は磯焼け対策活動の一環としてカジメブロック（建材ブロックなどにカジメを種付けし漁場に設置して藻場を再生させる技術）の種付け作業を行いました。事前に陰干ししたカジメを海水に入れて遊走子を放出させ、その水を建材ブロックが入った別の水槽に注いで種付けを行いました。種付けしたブロックはそのまま陸上水槽で管理し、ある程度幼葉が成長してきた段階で漁港内のイカダに移し育成試験を行う予定です。初声地先では近年カジメがほとんど見られなくなってきており、漁業者は今回の取組みが藻場復活のきっかけになることを期待していました。

種付けに用いたカジメ


ブロックに種付けしている様子

○ 10月8日、横浜市漁協柴支所で地元小学校の総合学習が行われました。当日は小学生約 100 名が漁

港や市場を見学し、漁業者や漁協職員から柴で水揚げされる魚のことや底びき網やアナゴ筒等の漁業のこと、魚の流通のこと等について説明を受けました。児童たちは、普段見られない漁船や大きな魚などを興味深く見学し、熱心に質問をしていました。同支所は学校教育への協力に熱心で、この秋から冬にかけて８校もの見学を受け入れるそうです。

市場での説明を聞く児童たち

○ 10月14日、15日、県漁連が漁業就業希望者を対象に10月から開講している「かながわ漁業就業促進センター」の研修生３名が当センターを訪問しました。当日は、普及指導員から普及成果事例や外部参入若手漁業者の事例について、各担当研究員から海況情報や栽培漁業等について、無線担当から漁業無線等について、船舶課の船員からロープワークについてそれぞれ講義があり、研修生はみな熱心に聞き入っていました。

講義の様子

●お 知 ら せ

○ 令和３年１月に予定していた「令和２年度神奈川県漁業者交流大会」は関係機関で協議した結果、新型コロナウイルス感染予防の観点から開催を中止しました。